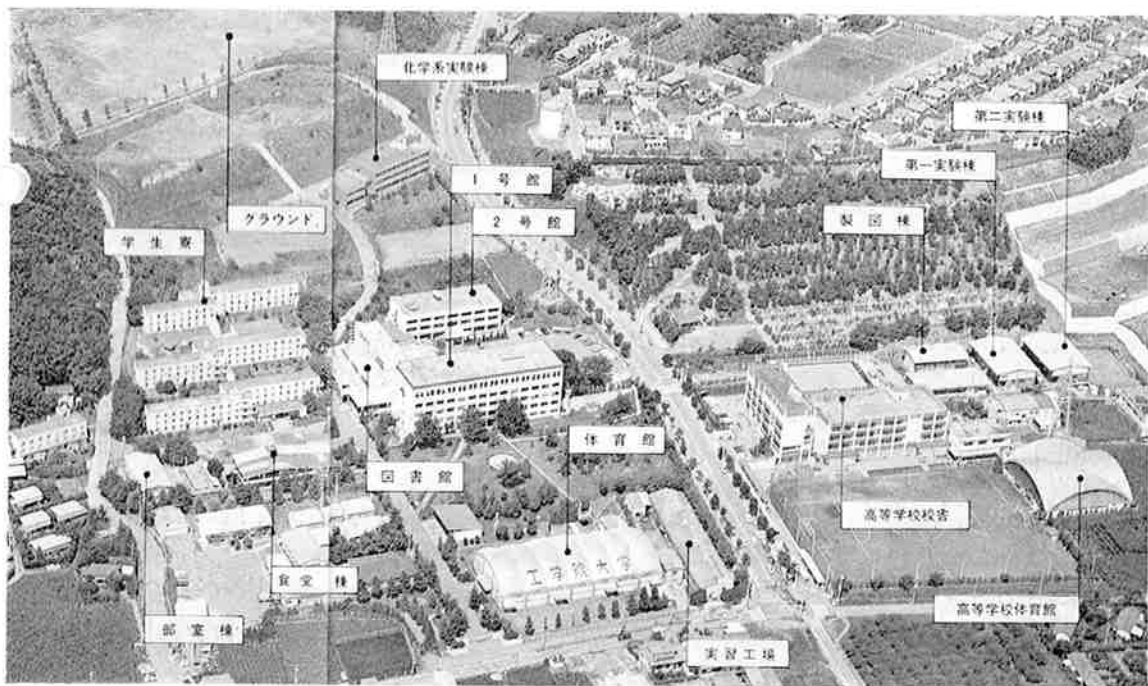


第100号 校友会報 29卷1号

昭和56年4月



八王子校舎全景

— も く じ —

○挨拶.....伊藤鄭爾・前島為司...1	●建築同窓会.....小高 鎮夫...10
○会報100号に寄せて.....野口 尚...2	●応化会.....間宮富士雄...10
○全国大会(中国大会)報告.....広報部...3	●高等学校同窓会.....足立 剛一...11
○昭和56年新年懇親会報告.....事業部...5	●専門学校同窓会.....森山 健次...11
○創立90周年記念事業について.....吉田 清風...6	○校友会だより.....11
○近況報告	○第25回定時総会開催のお知らせ.....13
●法人.....7	○昭和56年度事業計画.....13
●大学.....7	○昭和56年度歳入・歳出予算書.....13
●高等学校.....8	○昭和55年度収支決算書.....14
●専門学校.....9	○昭和55年度財産目録.....14
○近況報告(単体同窓会)	○昭和55年度総会報告.....15
●機械工学同窓会.....青木 浩一...10	○昭和55年度全国支部長会議.....16
●電気同窓会.....内山 太...10	○支部だより.....16

会報100号までをふりかえって

広 報 部

春たけなわの日曜日、事務局から借用して来た校友会報の山から創刊号を抜き出しページをめくりはじめた。

テーブルの上に積み上げた会報は創刊号から、100号まで全部で21cmの高さにもなる。やや変色したものもあるが、いずれもしっかりと保存されており、独特の臭いが30年前に呼び戻してくれる。

校友会の歴史をものがたる会報が、ただの一冊も欠けることなくきれいに保存されていたことは、先輩諸兄や事務局の皆さんの大変な御尽力があったからこそと思ひ感謝しつつページを追った。夕暮れのころ全部を見終ったが、校友会、学園そして社会の移り変りが一頁一頁に刻みこまれており、感慨ひとしおであった。

▲創刊号のころ 終戦後の混乱期から抜け出たばかりの27年9月、旧同窓会を発展的に解消し、校友会が結成され会報創刊号が発行された。当時、学園は経営的に苦しく記事の中に、真剣な提議や報告が各所に見られるそして食糧難や社会不安の記事もものっている。

▲20～40号のころ 創立70周年以降、学園の拡充計

画が発表され、校舎の増築、学科の増設等充実がはかられた、34号には35年11月校友会が社団法人として認可されたと報告、定款が示されている。

その後、八王子校舎の建設、高校、大学の移転など大きな変化があったが、会報は42年の60号あたりから簡素化され、44年9月の65号からサイズを現行のものに縮小し、34年から続いたカラー表紙をやめている。

会報は校友会の活動を校友の皆さんに伝えるだけでなく、社会、風俗そして世界の動きも伝える。それだけに会報の内容はできるかぎり充実すべきと思う。最近では予算の制約がきびしく、かつ郵送料の値上りもあって発行回数が減り、内容も削減せざるを得ない状況であるが、早く改善して、より良い会報にしたいと願う。

これからも100号までを築き上げて来られた先輩諸兄に負けぬよう、広報部一同、より一層の努力を重ねてゆきます。全国の校友の皆さん、絶大な御支援と御鞭撻をお願い致します。

(武笠)

写真は左下が創刊号、右へ11号、21号～の順です。



あいさつ

学 長
伊藤 鄭爾



挨拶

会 長
前島 為司

悩みのひとつを申しあげるのも、皆さんへの挨拶かと存じます。それは、外国からの留学生の希望についてであります。この場合外国といっても東アジアの諸国は、漢字を使いますし、昔からの国交もございましたからよろしいのですが、問題はその他の国の人からの希望でございます。

最も多い例は、誰々先生の論文や書物を読んで、その先生について勉強したいというのだと思います。ところが今のところ、これはお断りしなければならないのが実情です。

新宿校地というのは場所がよいので、その点での立地条件はずばぬけて宜しいのですが、その方に提供する研究室がございません。机と椅子ぐらいなるとかなと思うのですが、それだけでは少々侘びしいのです。ことに学生となると外国語で教えてやらなければなりません、当の先生もその学生にだけ外国語で教えるわけにも参りません。

私などせいぜいできる事といったら、身元引受人を兼ねて学外指導をするくらいなものです。本学には国際的に活躍なさっている方やそういう能力をもってられる方はかなりおられると思います。そういう方に活躍していただく場や環境を提供できないのが悩みであります。

先日ジョナサンというイギリス人が訪ねてきて、9月にまた来るから先生のもとで勉強させて下さいと言って帰国しましたが、制度的にないからむつかしいと返事した次第です。制度については確かに事実がちがいありませんけれど、不可能というものではありません。やはり最大の理由は、施設、設備の点ではないかと思っております。

一度にはできませんけれど、少しづつ積みかさね、国際的な交流が行なわれる大学にできたらというのが、私の学園への希望のひとつでございます。

今度工学院大学理事長の職を離れ、後任に東大名誉教授で、都市計画の専門家でもあります高山英華氏をお迎え致すことになりました。理事長の職にありました間は、校友の皆様の大なる御支援によりまして、大過なくこの大役を勤めさせて頂きましたことを心よりお礼申し上げます。

特に、在職中は、同窓会、校友会との合併直後のことであり、両者の融合と、学園側と新校友会との新しい結合は、私にとっても重要な仕事でありました。校友会の副会長はそのまま同窓会の会長でもあったことや、又私自身が校友会の会長でもあり、この年間に様々なことが発生しましたが、一応新生校友会も順調な滑り出しを見た事は、まことに御同慶にたえない次第と存じます。

所で、皆様もすでに御承知のこととは存じますが、合併時には校友会の運用財産は5,400千円であり、55、56年度の2年間で3,600千円の取りくずしとなり、このままでは合併はしたが、財政面で校友会は崩壊の危機に面することになりました。そこで今回の会費値上りの問題が生じました。各学校の新入生より、会費は値上されますが、同時に校友会員も、賛助会費徴収の制度が出来ます。これら一連の議題が今回の総会で審議されますので皆様方の御協力をよろしくお願い致します。

その他、90周年記念事業の募金につきましては皆様方の御協力によりまして、今年4月21日無事富士吉田セミナーハウスの落成式を行いましたことを御報告致します。又会員有志の皆様と、学校側、各同窓会側の寄付により、8階会議室の改修が終り、あとジュータンを残すのみとなりました。応接室も兼ね、パーティーも開催出来る多目的会議室です。皆様の御利用をお待ちしています。今年度は、魅力ある校友会をめぐし、校友会将来ビジョン特別委員会が発足致しました。御期待下さい。

会報100号に寄せて

野口 尚 一

今回工学院大学校友会報第100号が刊行されるに当り、その感想を述べるよう懇請があった。小生もその1人だったが、何分世間から離れて10年余も経っている、94歳の老翁にとっては30年以上も前のことから始まるこの感想を何とか纏めるのは大変なことなのである。

工学院大学に関係を持つようになったのは昭和24年からであったので、丁度32年になり、校友会報の創刊から29年になる。その間に小生は昭和45年に工学院大学を辞任して以来10年以上も人間離れた生活を営んで居る。ただ工学院大学は小生の第2の人生として特に印象の強いものがあるので、思い出す儘に記してみたい。

どの新設大学も同じように従来とは異った内容を要求されるので発足の条件はなかなか重荷であった。大学設置基準の線まで漕付けるのには皆が随分苦労した。工学院大学の場合も御多聞に洩れず発足の以前に苦心を重ねたに相違なかった。後で聞いたのだったが、大学昇格を申請すべきか否かについては当面実行の責に当る学園当局で必ずしも積極的ではなかったが、卒業生と在学生の熱烈な運動によって漸く実行に決定したということであった。このような条件の下に発足したので、設備の充実に就いては卒業生の一と方ならぬ御骨折が有って認可の関門を通過できたと思われる。

大学がこのようにして開設されたが資金的には極めて窮屈な状態であったので、日常の資金準備に関しても随分卒業生各位の御骨折をわずらわしたと記憶している。待望の4学科制の実現に当り慰労会の席上で小生は思わず涙を落した位であった。

その後も難かしい事有る毎に卒業生の方々に御厄介をかけた。このようにして大学初期の整備が進められたのである。これから見れば学生数の増加と教育内容の充実とが、原因、結果になって今日のように博士課程を有する大学院大学として成立することができたのである。

一応安定の途に入った大学のその後の運営は安全第1



であった。油断をすれば後に戻るぞといわれる坂道の連続だと思えば宜しかろう。急ぐことは禁物、安全第1の方針の下に次の段階が考察される。それは次の進展の道が明らかになるまで運営も生長も安全に保つというような消極的なものであった。そのような方針の下に所期目標である、博士課程を有する大学院の設置まで努力を続けた訳である。

今日から見ると現状は何の変哲もない順調に進んで来たように見えるかも知れないが、初期の苦勞は思出しても胸が痛むような思いを残して居る。

それから更に相当な歳月を経て学園は依然として進歩に向って努力しつつある。年毎に卒業生は増して行くと同時に先輩はそれぞれ社会的に発展して行く。卒業生という団体では年毎にその内容を拡大しつつある。顧るに学園の消長は卒業生諸君の学園に対する関心と協力の如何に係わるものと思われる。卒業生諸君は諸君の占める位置の重要性を考え、学園のために一致団結して学園の興隆に大いなる力を発揮されんことを希うものである。

(工学院大学元学長)

全国大会(中国大会)報告

広 報 部

第四回全国大会は、地元広島支部を中心に関西、中国、四国、九州各支部の協力を得て日本三景の一つ安芸の宮島で行われ、参会者約130名、多大な成功を収めました。以下にその概要を報告致します。



懇話会

会場、日程

大会開始 昭和55年11月8日(土) 午後3時より
第一部会場 宮島観光会館
第二部会場 宮島町「宮島観光ホテル」
翌日見学 翌日朝食後、厳島神社(舞楽奉納)宝物館、雪舟園、紅葉谷公園、五重塔、千畳閣等を見学(正午解散)

第1部 懇話会次第

1. 開会の辞 花田広島県副支部長
2. 挨拶及経過報告 落合大会委員長
3. 名誉委員長挨拶 岡田名誉委員長
4. 会長挨拶 前島会長
5. 副委員長挨拶 外井広島県支部長
6. 来賓挨拶 (1) 梅林宮島町長代佐々木氏 (2) 山内常務理事
7. 会務報告 小高副会長
8. 支部関係報告 落合支部拡充部長
9. 質疑応答
10. 映画(広島銀行提供)
11. 閉会の辞 戸田副支部長(広島)

第2部 懇親会次第

1. 記念撮影
2. 開会の挨拶 梅田委員
3. 宮島踊り 地元有志
4. 演芸、その他
5. 万歳三唱交換 前島会長、小川委員
6. 閉宴の挨拶 小川委員

第1日の大会次第は大体以上の通りですが、その盛況振りは写真その他により想像願うことにします。なお来賓は以下の諸氏でした。

学長 伊藤鄭爾(欠)、常務理事 山内邦比古、専門学校長 小浪博、名誉教授 山内茂、浜井専蔵、工業化学科教授 青島与、90周年記念事業事務室長 吉田清風、学生部就職係長 小西義信。

次に本大会に対し御賛助いただきました26会社、法人校友会員23名の方々に對し実行委員会より厚く感謝の意を表されました。(角田)



宮島踊り

宮島の沿革

花田 義 美
(広島支部副支部長)

宮島は昔より原始林におおわれた弥山を主峰とする山谷に靈気が感じられる所から、島そのものが神として信仰されてきました。そしてその歴史は厳島神社とともに歩んできたこと云々でしょう。厳島神社は推古天皇即位元年(五九三)に佐伯鞍職により創建されたと伝えられ、

平家の庇護を受けたことにより社運は盛大になっていきました。平家滅亡後も幕府及び朝廷の崇敬は次ぎ、室町末期政情不安のため、一時衰微したものの大内義隆の保護により大鳥居の建設に着手されるに至りました。また戦国時代には有名な厳島合戦の舞台となり、凄烈な合戦絵巻が繰り広げられました。神の島、宮島も十四世紀末から十五世紀初頭にかけて次第に町として形成され瀬戸内海の要港としての性格を帯びるようになりました。江戸時代には、有名な宮島歌舞伎や宮島遊郭が生れています。

そして、明治以後、神仏分離政策などにより厳島神社の歴史にも、大きな変動がみられましたが、古来連綿とつづいてきた厳島神社としての性格は少しも変わっていません。

今日、宮島は、豊かな自然と厳島神社の数多い建造物文化財を守り育て、瀬戸内海観光の中心的存在として、人々に愛されています。



宮島見学 舞 楽

翌日の朝食後一行は約五十名づつの班に別れ出発した。校友会の大先輩(大正七年建築科卒)岡田貞次郎(厳島神社技師、広島県文化財専門委員)氏に特別解説を加えて頂きました。豊臣秀吉の死により未完成のまま今日に至っている千畳閣やまたその東側にそびえ立つ五重塔は和模様と唐模様の建築の粋を集めた珍しい様式で、朱塗りの美しい姿でひとときわ目を見張る思いでした。続いて厳島神社の廻廊に移って、数々の型式や構造の様式等を聞き今更への思いの方が多かった様子でした。次いで中央の拜殿前、高舞台で舞楽が校友会え特別に奉納されましたが、これは校友会会員で宮島町出身の竹本委員のお父様が神職であり、特別の肝入りと岡田氏の御尽力により施工されたもので、優雅な楽の音に合わせて舞ぶ姿に思わず恍惚の境地にさそい入れられました。更に拜観は

宝物殿、歴史民俗資料館から水族館に及びました。大元公園と桜の古木群生する自然公園では、春は桜、初夏はツツジ、秋は紅葉と四季を通じて訪れる人を楽しませてくれる。岡田貞次郎氏は、昭和四十四年文化財建造物修理の功により勲五等瑞宝章を受ける等、他にも数々受賞されているが、この事にはご謙そんの様子でした。

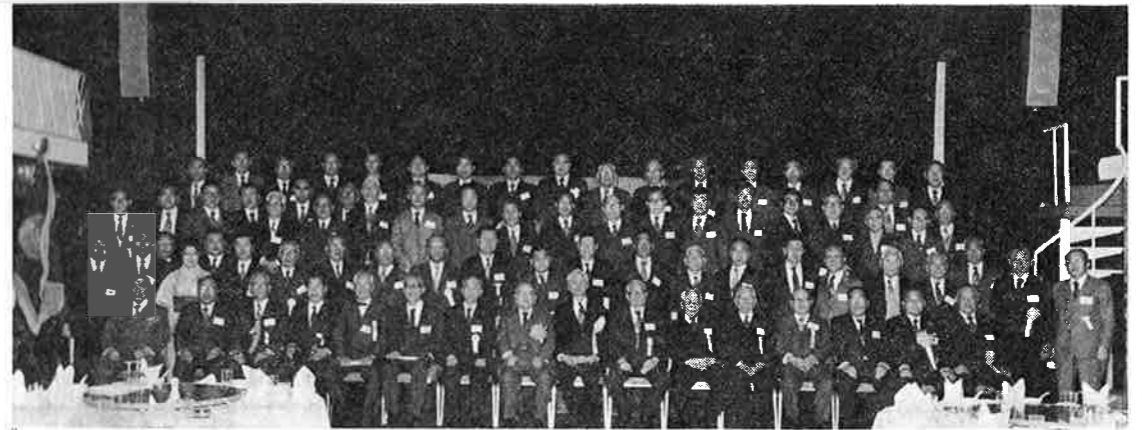
古くから日本三景の一つと称せられ、今日でも特別史跡名勝風致地区に指定され、海に浮ぶ朱の大鳥居をシンボルとして、広く今でも世界にその名を知られる瀬戸内海国立公園宮島に新たに出来た文化施設に歴史民俗資料館が出来ていて、厳島神社を中心にした数々の国宝重要文化財はすでに紹介しつくされているが、宮島の庶民生活に根ざした古い良きものは保存又は収集されなかったため、その多くは失われようとしています。そこで幸いに江戸時代から明治にかけて豪商といわれて栄えた旧江上家の家屋敷を、町がそっくり譲り受け、この建物は今より百四拾年前の建築と云われる母屋と土蔵を、そのまま保存し新たに展示館にされています。

一行は山道を得て大元より紅葉谷へと歩いた。紅葉谷公園は、厳島神社の裏弥山原始林に包まれ、文字通りもみじの名所でその美しさは日本一を誇っています。校友会の皆様の新祀と申しますが、地元広島会員の中にも見た事もない最高の美しさは此の上もなく和ましてくれ、特に遠方より出席された方には最高の感銘頂きました事を嬉しく思いました。ここから展望の素晴らしい山頂へ快適なロープウェイが通じています。山頂には、弘法大師ゆかりの「消えずの火」の上にかかる真黒にすすけた大茶釜、この湯は万病に効くとあってまづ参詣者は口にします。

霊火堂前で毎年四月十五日と十一月十五日に行われる火渡り式は、扇息災や合格祈願を急じながら炭火の上を素足で歩きます。

霊火堂と錫杖の梅も其の名も高く広く伝えられ消えずの火は日本三大霊火で千弐百年前から燃えくすぶり続けております。錫杖の梅は弘法大師が立てかけられた杖が根付いたものと伝えられております。

又紅葉谷より山頂へ弥山道があり若人は歩いて登る人少なくありません。当日は幸い秋日和に恵まれ日本の美安芸の宮島、紅葉に装った華麗な姿を見て頂き、名残り尽せぬまま正午宮島グランドホテルに帰宿和気相々の内に散会しました。(第126回D建)



昭和56年新年懇親会報告

事業部

日時 昭和56年2月15日

会場 東京・目黒「雅叙園観光ホテル」

出席者 80名

厳しい寒さもこの3～4日は暖かく春めいてオーバーも重く感ぜられる。目黒駅を降りると曇り空から雨粒がかすかにあたり始めた。

開会の頃には薄日も差し、次第に明るくなって来た。やれやれと胸をなでおろし受付の席に着く。

定刻3時より懇話会が会議室の2階シルバールームで久保田委員長の司会で開会された。学長と山内・横田両教授の御来賓をおおく。

幹原委員長の開会の挨拶に続き、前島会長の挨拶があり、校友会の活動はにぶる一方の処、学校当局並に諸君の力で経済的基盤が出来つつある。事業計画も一つづつ実行していくよう理事会で取り上げられ、今年の運営に努力していきたい。

次いで来賓の祝辞を、伊藤学長より頂戴。2月6日から9日まで3日間入試があり、採点中である、明日は合否の結果が出る予定で、卒業式も3月25日予定通り終える予定である。

学園全体の雰囲気はよく成ってくると思う。施設面も外から少しづつ良くなっていく。次に八王子、新宿と今よりかかっている施設を優先して、おいおい設備、人材を充実させていきたい。

専門、高校、大学3校とも有機的なつながりを話し合ってきている。又父兄、校友の協力を得て「窓」(今まで学園全体ではなかったが)を今回から学園全体の機関紙とした。

長野計器の溝呂木金太郎社長より多額の寄附があり、溝呂木賞を設けることになった。学園記念日にそれを授

賞したい。

次いで小高副会長より校友会近況の概要の説明があった。また小野塚総務部長より恩賞者の紹介があり、亦感謝状の授与が前島会長より渡された。(下記)

次いで伊藤真治理事よりの提案で、故鈴木一幸監事、故大阪支部長吉富元一氏と故宮田益雄氏の三氏の冥福を祈って黙禱を捧げた。足立副会長の閉会の辞により第1部が閉会となり、記念撮影が行われた。

午後4時30分より第2部として宴会に入る。内山副会長の開会の挨拶、落合支部拡充部長の遠来者の紹介、元校友会月原会長の力強い御発声で乾杯が行われた。

演芸は幹事諸氏の企画で、各テーブル毎、グループとなり、8～9名が肩を組んで歌いまくる、その歌はお座敷小唄・木曾節・草津節・佐渡おけさ・酋長の娘・炭坑節・南国土佐を後にして・花笠音頭・人生劇場とさまざまであった。

歌にちなんだ賞品が参加賞とし委員長より各自に渡された。有志の飛入りで又々演芸は続き、飲は尽きなかったがそろそろ時間の到来、万歳参唱。森山副会長の閉会の辞をもって6時30分終会となる。(金尾武彦)

恩賞者

山根 茂殿 (A化68)

工学院大学教授 勲3等瑞宝章

菊地 忠雄殿 (B土92)

元福島市議会議員 勲5等双光旭日章

舛井 寛一殿 (B船108)

関マスカン社長 農林大臣賞

感謝状授与者

前新潟県支部長 大滝 広蔵殿 (B土92)

前愛知県支部長 安部 重信殿 (B建80)



創立90周年記念事業について

創立90周年記念事業事務局

室長 吉田 清風

創立90周年記念事業募金につきましては卒業生の皆様を始め、在校生の父母、会社、教職員等のご芳志とご協力によりまして、現在総額2億3千万円のご申込みをいただいております。

その中、卒業生からは件数にして2,243件、金額にして5千5百万円の申込みを賜っております。

ご寄付をいただいた方々に、ここに謹んで厚く御礼申し上げます。

また、創立90周年記念事業委員会の本委員会の委員を始め、募金の推進に努力くださいました、募金推進会議募金委員会等の委員会等の委員の皆様にも深く感謝申し上げます。

さて、この記念事業の第一の目的とされている富士吉田セミナー校舎の建設は清水建設と契約をむすび、昭和55年3月着工、昭和56年1月竣工、昭和56年2月中旬引渡しがおおりました。

落成式は4月21日に開催することになっております。

このセミナー校舎は、富士の霊峰を南方正面に望み、静かな環境に包まれており、山中湖、河口湖にも近く、校地内にグラウンドを備え、画期的な教育施設と申せます。

つきましては、この施設は学生、生徒の教育研究および課外活動並びに教職員の研修に使用することになりますが、使用に差し支えない限り、卒業生を始め学園関係者も使用できますので、ご利用いただきたいと存じます。



富士吉田セミナー校舎 全景

す。この使用申込みについては、新宿校舎総務課庶務係にお問い合わせ下さい。

記

富士吉田セミナー校舎の概要

所在地 山梨県富士吉田市新屋279 電話 0555(2)2792
交通 中央線大月駅で富士急行に乗換え富士吉田駅下車 山中湖方面行のバス 公民館前下車徒歩約5分

施設および設備

土地	約50,632㎡
構造	鉄筋コンクリート造2階建
床面積	1,480㎡
階別用途	1階 大セミナー室(60名収容) 小セミナー室(12名収容) 浴室 洗濯室 機械室 管理人室
	2階 玄関ホール 事務室 宿泊室(60名収容)
	内訳 洋室(6畳大) 5室 洋室(10畳大) 4室 和室(10畳大) 4室
	中セミナー室(28名収容) 食堂、ラウンジ

以上、創立90周年記念事業について現状を申し上げます。

近況報告

■法人■

○役員の変動

昭和56年3月末日をもって任期満了に伴い第11期(昭和56年4月1日～昭和59年3月末日)学校法人工学院大学の役員が下記のとおり選任されました。

記

理事長 高山英華(東京大学名誉教授、都市計画中央審議会会長)

常務理事(総務担当) 草野 邁(大学教授)

〃(経理担当) 富子勝久

〃(学務担当) 平川紀一(大学教授)

理事 伊藤鄭爾(大学学長) 遠藤鎮雄(高等学校校長) 足立剛一(榊原興産代表取締役) 前島為司(前島建設代表取締役) 奥野治雄(大学兼任教授) 笠木三郎(日本学術振興会理事) 鈴木昇太郎(丸の内供給関係)

なお、理事長職務代理の第一順位に伊藤鄭爾理事が、第二順位に草野邁常務理事が各々指名された。また評議員会議長には、宮越美知夫評議員、副議長には、落合康男評議員並びに副議長職務代理者に間宮富士雄評議員が各々選任されました。

○富士吉田セミナー校舎の落成について

本学園創立90周年記念事業の一環としてかねてから建設中でありました富士吉田セミナー校舎が竣工いたしました。これはひとえに校友会関係者をはじめ内外関係各位の強力なご支援によるものと深く感謝いたしております。

落成式は、4月21日(火)に執り行う予定であり、修祓式は午前11時から1階大セミナー室で、落成祝賀会は2階ラウンジで行ないます。

なお、出席者は山梨県知事、富士吉田市長を始め、官公庁関係者、地元関係者並びに90周年記念事業にご尽力いただいた方々を予定しております。

このセミナー校舎は、学生・生徒の教育、研究及び課外活動並びに教職員の研修の使用に差し支えない限り学園関係者も使用できますので、是非ご利用下さい。

使用中申込みについては、新宿校舎総務課庶務係にお問

い合せの上、お申込み下さい。

使用料(1人1泊2食付)

(1)洋室(2段ベッドのツイン=5室)及び和室(10畳=4室) 2,200円

(2)洋室(ツイン=4室) 3,000円

○本学園関係者叙勲について

昭和55年春・秋の叙勲に際して、下記のとおり本学園関係者が叙勲されました。

記

勲一等旭日大授賞 兼重寛九郎元評議員

勲二等旭日重光章 岡田 実顧問

勲三等瑞宝章 森島恒雄名誉教授

同 山根 茂名誉教授

同 坂本雅夫暫定特別専任教授

○名誉顧問の称号贈与について

学業成績優秀な学生に対する奨学基金として500万円寄付された本学園出身者・溝呂木金太郎氏に対して、昨年10月21日に名誉顧問の称号を贈与しました。

なお、この奨学基金をもって、元理事長・大岡吉昌氏から寄付された金員を基金として設けられた大岡奨学金制度に準じて、溝呂木奨学金制度を設け、本学学部学生で、学業・人物ともに優秀な者を奨励するため毎年学園創立記念式典の際に学資を給与することになりました。

○本学園顧問・月原 貢氏から学校法人工学院大学校友会と学園同窓会の合併を記念して昭和56年3月3日に奨学基金として、額面10,310千円の割引債券の寄付がありました。月原奨学金制度を設けて本学園の教育振興に有意義に使わせていただく所存です。

■大学■

1 昭和56年度入学志願者状況

56年度学部入学試験は、2月6日(I部機械系学科・電気工学科)、2月7日(I部工業化学科・電子工学科)、2月8日(I部化学工学科・建築学科)、2月9日(II部全学科)の4日間にわたって行なわれた。工学部(私学)の全国的傾向とわいえ、本学においても志願者が前年度に較べ若干減少したわけである。ところで56年度志願者状況は次の通りである。

近況報告

部 別 科コース	一 般 入 試			
	I 部		II 部	
	入学定員	志願者数	入学定員	志願者数
機 械 工 学	180	1,646	120	88
生 産 機 械 工 学	80	618	90	49
工 業 化 学	50	392		
電 気 工 学	90	966	110	141
電 子 工 学	90	1,388		
情 報 工 学	90	962	110	185
建 築 学	150	1,659		
計	640	7,631	430	280

上記の志願者数にはもちろん I 部 II 部とも推薦志願者数は含まれていない。この点に関して注意すべきは、従前の推薦制の外に指定校推薦制が今年度より加えられた点である。指定校推薦制はまだ緒についたばかりであり今後改善を加えながら成功させたいと思っている。

2 昭和55年度学部卒業予定者数は次の通りである。
(昭和56年3月4日現在)

部	学 科	卒業予定者数	機 械	生 機	工 化	工 化	電 気	電 子	情 報	建 築
I 部		1,135	197	85	115	109	145	104	55	325
II 部		366	62	11	31	28	49	53		132

3 昭和55年度大学院学位授与関係については次の通りである。(昭和56年3月5日現在)

(1) 工学博士学位授与

本学大学院では55年度中に下記の通り論文博士2名(審査中1名を含む)、課程博士1名(審査中)に学位を授与する予定である。

(論文博士) 鈴木邦夫(本学電気工学科卒業、東京大学勤務)

論文題目「超高圧電子顕微鏡による動的観察装置の制作とその応用」

(論文博士) 土屋正臣(本学工業化学科卒業、慶応大学勤務)

論文題目「ピリミジン誘導体とその分析化学的利用に関する研究」

(課程博士) 馬場則男(本学博士後期課程電気工学専攻修了)

論文題目「各種電子レンズの超幾何函数による解析と偏向レンズの収差補償

に関する研究」

(2) 修士課程

専攻別	修了予定者
機械工学	8
工業化学	3
電気工学	5
建築学	16
計	32

(教務部長 宮島堯)

高等学校

《学校行事》

昭和55年4月8日、入学式、新入生405名を迎える。4月28日、高尾山・景信山強歩大会。5月28日、一年遠足、静岡県花鳥山脈にてオリエンテーリング。6月中、生徒会によるユニセフ募金。生徒教職員の浄財67,000円を本部に贈る。6月4日、12日、工学院大学各系列学科から講師をお願いして進学説明会を実施。6月26日、大学・高校連絡協議会、於新宿第二会議室。大学側学長以下14名、高校側17名出席。本校出身者の単位取得状況、卒論着手率、機械系学科の基礎学力調査結果等の検討、高校の進路状況資料、到達度テスト成績資料等をめぐり意見交換。9月2日、3日、競技大会。9月20日、体育祭。10月25日、第一次推薦試験、213名受験。11月2日、3日、学院祭、製図、写真、絵画の展示、英語劇、自然科学の実験よりも、飲み食いのお店に人気が集まっていた。11月27日～12月3日、2年生2班に分かれて京都・奈良・飛鳥5泊6日の修学旅行。11月27日、大学・高校連絡協議会小委員会、於新宿第六会議室。大学側一般推薦、本校第一次推薦試験の結果等について報告及び意見交換。1月12日、推試合格者発表、一部124名、二部22名。1月14日、演劇鑑賞「町人貴族」於立川市民会館。2月3日、一年理科見学会、横須賀市博物館。3月10日、大学・高校連絡協議会小委員会、於新宿第3会議室。推試成績、入試状況の報告及び意見交換。55年度の総括。

《クラブ活動》

○自然科学部 11月13日、NHK教育テレビ「みんなの実験室」に手作りのリア・モーターカーを走らせ好評を博す。

○プラスバンド部 11月12日、新宿祭パレードに参加。

○放送部 8月、NHK放送コンテスト全国大会テレビ部門に「みの虫おじさん」4位入選。

○柔道部 9月23日、東京都学年別柔道大会に3年2位

近況報告

2年ベスト8に入る。

《施設》 6月2日、電気科実習室落成式。9月1日、生徒ホール完成。校内で最もきれいな憩いの場所である。

《56年度志願者応募状況》 普通科810名、工業科499名計1,309名。前年度より91名少なかったが、都内私立高校の平均は超えている。

《消息》 柴崎功一先生ご逝去 先生は本校の草創期より32年間に亘って在職され、そのご薫陶に巨きな足跡を残されました。昨秋初めからお体に異常を覚えられ、10月中旬国立中野病院にご入院、闘病を続けて来られましたが、その甲斐なく、3月25日午後11時4分不帰の客となりました。享年56歳。謹んで哀悼の意を捧げます。

(高校 宮越美知夫)

専門学校

○昼間部電気科応用化学科増設延期

近年、高校生の専門学校現役志願率が急増しています。それも昼間部志向が強く、夜学志望は減る一方のようです。本校もこの社会状況をにらみ、昭和56年度から前記2科を増設する準備を進めて参りましたが、去る5月学園理事会に増設許可を申請、また大学専門学校連絡協議会を通じて、大学へも協力を要請いたしましたが、結局、大学と同じキャンパス内で、これ以上学生を増すことは好ましくない、との理由で、増設は延期されました。

○昭和56年度入学応募状況

	土木科	機械科	電気科	建築科	造船科	応用化学科	金属科	計	備 考
昼 間 部	入 学 定 員	40	40	—	40	—	—	120	11月28日 推薦入学 面接入試 3月4日 一般入学 学科試験 3月25日 二次募集 学科試験
	志 願 者 数	77	90	—	200	—	—	267	
	(推せん入学)	(29)	(27)		(75)			(131)	
夜 間 部	(一般入学)	(41)	(53)		(106)			(200)	3月25日 二次募集 学科試験
	(二次募集)	(7)	(10)		(19)			(36)	
	合 格 者 数	69	78	—	173	—	—	320	
夜 間 部	入 学 手 続 完 了 者 数	61	73	—	157	—	—	347	3月31日まで 願書受付中
	春学期入学定員	40	40	40	100	40	40	340	
3.25現志願者数	70	39	47	143	8	38	7	352	

○昼間部第一回卒業生の進路状況

	土木科	機械科	建築科	計	備 考
学 業	入学した時の人数	64	57	103	224
	2年に進級した数	53	45	52	150
進 路	卒 業 生 数	49	38	41	128
	進 学 者	1	3	2	6
進 路	自 営 業	16	9	6	31
	就 職	32	26	33	91
					自己開拓8、学校の紹介83

○昼間部第一回卒業式と卒業生の進路

本校発展の一つの節として、大きな期待のもとに2年前設立された昼間部が、その第一回卒業生を3月14日に送り出しました。長い伝統をもつ夜間部の根性教育が、そのまま適用しにくいこと、実社会経験の全くない現代若者達の考え方、など色々な教訓を学校に残してくれました。また次表のように、予想以上に落伍者が多かった点も、反省の材料です。尚卒業生の就職に関し、校友の皆様から多数ご求人をいただき、誠に有難うございました。(求人会社数530社、求人総数2,414人、含夜間部)

○小浪校長退職、新校長鈴木敬治郎先生

昭和24年以来30有余年にわたり、本校育成に半生を捧げられた小浪校長が、3月31日付定年退職されます。当初全卒業生僅か27名ということもあった本校を、全国有数の専門学校に育て上げられた小浪校長のご苦勞は、大変なものであったに違いありません。本当に長い間有難うございました。

4月1日からは、昭和27年以来、本校に於て基礎物理と金属科を担当してこられた鈴木敬治郎工学博士が、校長に就任されます。いま、学園をあげて将来計画と取り組んでいる中で、本校もこれから非常に大事な時期にさしかかっています。新校長を中心として、教職員一同、全力を尽して事に当る決意であります。校友の皆様のご支援をお願い申し上げます。(校務長 安原豊)

□近況報告(単体同窓会) □

機械工学同窓会

会長代行(副会長) 青木 浩一

55年6月8日総会が母校で開かれました。55年度活動計画、予算案が可決されましたが多くの問題を抱えています。その一つは財政の健全化です。収入源は在学生4年間会費(7,000円)に依存しており、会費の値上などのその場しのぎの無計画さでは許されません。その二は同窓会のあるべき姿であり、ビジョン委員会の答申の実現です。この大問題に長期財政及びビジョン委員会を再発足させ、これらの委員会と理事会で検討中であり早急に結論を出さねばなりません。また恒例となった3月25日卒業祝賀会(母校にて)は400名以上の卒業生の出席であふれています諸兄のご出席もお待ちしています。5月24日(日)は定例総会が開かれます。今年役員改選ですので、評議員会の中に選挙管理委員会が設けられ、立候補推薦の受付、候補選出投票などの準備を行なっています。

電気同窓会

会長 内山 太

工学院大学電気工学科が昭和30年に設立され本年は25周年に当たりますので、電気工学科、電子工学科、情報工学科の電気系学科主催の創立25周年記念の祝賀会に協賛という形で参加致しました。京王プラザホテルのエミネンスに於て、昭和56年2月15日(日)に25周年祝賀会を行い、短期間の準備にもかかわらず、300余名の多くの参加者を得て盛大に有意義な祝賀会を行なったことを感謝致しています。当日御来賓として伊藤鄭爾学長、岡田実元学長、相野谷重信後援会会長の方々が御列席下さいました。祝賀会場で電気同窓会は、学力優秀な15名の3年生を対象に奨励賞の表彰を行ったが、この表彰は、本年度より始められた新規事業であります。電気同窓会の名簿の発行準備が長嶋理事を中心に順調に進んでいますので入用の方は、同窓会まで申込んで下さい。

根岸照雄氏(第1回卒)が昭和55年4月に助教授に昇

進されました。本学の電気系に同窓生の助教授が3名となりました。同窓教授の誕生が待遠しいです。

建築学科同窓会

会長 小高 鎮夫

昨年11月3日の文化の日に、工学院大学建築学科開設25周年記念祝賀会、が新築早々の京王プラザホテル南館エミネンスホールにて、梅村魁、日本建築学会々長、岡田前工学院大学学長を始め、教職員、卒業生、関係企業等、500余名の多数の出席者を迎えて盛大に挙行されました。又現在、待望久しかった建築学科同窓会名簿が完成致しました。工手学校以後の、建築、土木出身者を含めた合併記念号です。御希望の方は校友会事務室迄御申込み下さい。名簿と同様、建築学科同窓会誌が5年振りに発行されることになりました。今回は、学科開設25周年記念特集号で、特に、日比谷の第一生命ビルの設計者であり、赤レンガの東京駅舎の設計に参加しておりました大先輩、松本与作氏の紹介を中心に編集しております。名簿、会報発行と併行し、卒業年度別より移行した研究室単位の新しい組織造りが着々と進んでおります事も併せて御報告致します。

応化同窓会

会長 間宮富士雄

応化会の昨年度の目新しい活動としては、昨年11月8日・9日の校友会主催の第4回全国大会と同じ広島県宮島で第28回総回を実施した事です。以前から総会をなんとか魅力のある会合にしたい、また地方における親睦会を開催したいと考えておりましたので、新しい試みとして地方総会を開催した次第です。この総会には39名の会員が参加し、学園より山根、麦島、浜井諸先生を御招待し、総会のあと懇親会を催し十二分にかたりあいながらなごやかな一夜をすごしました。

今後も校友会の全国大会と時を同じくして地方総会を開催する新しい試みの指針となるものと思います。

本会の発展のために会員諸氏の本会に対するアドバイ

□近況報告 □

を御寄せ下される事と御支援御指導を改めて御願いし、且つ会員諸氏の御発展と御健康を念じつつ筆を擱きます。

高等学校同窓会

会長 足立 剛一

日増しに暖かくなってまいりましたが、同窓会諸兄にはますますお元気にお越しの事と存じます。校友会の総会通知を兼ねて高校同窓会の近況をお知らせ申し上げます。3月3日に第32回卒業式が行われ、新しい会員407名を迎えました。現在会員数も1万2千有余名となりました。昨年11月16日昭和55年度総会を八王子校舎で行いましたところ多数の会員諸兄が出席され次の事項が決まりました。これも会員諸兄のご協力のお蔭と感謝いたしております。(1)役員改選(2)本年より総会を9月を目標に毎年開催する(3)会員名簿のカード化にともなう名簿委員会の設置(4)基金作りを目的に財政委員会の設置。特に会の基金につき各界で御活躍の諸兄からの御援助を賜われたいと存じております。尚9月の総会には多数参加下さるようお願いいたします。次に本年は校友会の役員改選にあたります。新たに役員をお願いする諸兄には同窓会共々校友会の活動に御協力をお願い致します。

専門学校同窓会

会長 森山 健次

専門学校同窓会は役員の皆様が大変良くやって下さるので私は本当に幸せです。ただ財源が少いために多勢の会員の皆様との交流が少い事が非常に残念です。専門学校同窓会が一部増設された事は皆様御存じと思いますが、此の度3月12日、第1回の卒業生が巣立つて行かれました。次に小浪校長先生が来る3月末で退任される事になりました。六月の総会の時に同窓会として、記念品をお送りしたいと思って居りますので出来るだけ多勢の皆様のお賛同を得られます事を期待いたして居ります。

本校の大学設置については先輩の血の出る様な御努力

と、皆様の中にも大学設置を喜んで御寄附をされた方も多いたと思いますが、最近の大学の先生方の中には本学の歴史を知らない、又御理解されない先生も居られる様で、学校の将来について先生自身の立場で考えたり、お話をされている事を聞くにつけ本当に残念です。学校は生徒のためのものであり、卒業生の母校である事を先輩も私達も忘れてはなりません。私達卒業生は、ただ母校の発展と良い子弟の育成を心から期待いたして居ります。

■校友会だより ■

55年度理事会

第5回理事会(54年度)(55.3.24—月一)

- 議事
1. 会議室改修の件
 2. 90周年募金協力推進委員会構成の件
 3. 会費検討特別委員会委員選出の件
常任理事7名、各同窓会6名 計13名が決定された。
 4. 55年度事業計画と予算について
 5. 会報年2回発行の件 年1回は決定2回は再度検討

第1回理事会(55.4.23—水一)

- 議事
1. 総会および評議員会開催の件
 2. 昭和54年度決算報告の件
 3. 昭和54年度事業報告の件
 4. 定款検討特別委員会発足
常任理事5名、同窓会6名

第2回理事会(55.7.23—水一)

- 議事
1. 昭和55年度のスケジュールについて
 2. 支部長会議開催について
 3. 慶弔規定について

第3回理事会(55.9.24—水一)

- 議事
1. 校友会費徴収について(次頁再録)
大学2万 専門学校1.5万 高校1万
 2. 校友会将来ビジョン特別委員会発足について
 3. 会議室改修費用増額と会議室用備品購入に